

表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言



もうひと転がり。

小生はMr.フィギュア。縁あって、今月から本誌表紙のビジュアル写真を担当させていただくことになった。見た目は偉そうにしているが意外と小心者。人間大好きなくせにちよつと人見知りで寂しがり屋。そんなどこにでもいそうな可愛い(?)中年である。故に所詮たいしたことは語れないが世の中の同世代を代表する者として本音の喜び・悩みを語る事が、読者諸氏のわずかな癒し、励みになることを期待している。

さて、第1回目のテーマは、「もうひと転がり」。小生は若い頃、ゴルフなんか!と粋がつていたが、今ではすっかりライフワイクになってしまった。へなちよこゴルフと長いこと揶揄されつつもめげずに練習し、最近やっとゴルフらしくなったと言われるようになった。ちなみにゴルフのスコアの半分弱はグリーン上でのパッ

ト数である。ドライバーで目一杯飛ばしても1打、50センチのショートパットを外しても同じ1打なのだ。表紙の写真のひと転がり不足がいかに悔しく嘆かわしいか、読者諸氏もお察しと思えます。シンを実況してみましよう。

さあMr.フィギュア、いいところにオンしました、打った!読みこんだ末の渾身のパットがラインに乗ってまっすぐ向かっていきます。打った本人は目を細め祈るように拳を握り、パートナー達の視線も1点に集中しています、入るか! ああ、止まった! まるでスローモーションを見ているかのようにカップ寸前で無惨にも静止してしまいました。Mr.フィギュアの叫び声と周りの悲喜交々な歓声が起きています…。

るのだ。ゴルフはウエアやルールに厳しい紳士のスポーツといわれる。さらにナイスショット!と他人を褒め合い励まし合うのが基本の上品なゲーム。しかし実際は他人のミスショット、池ポチャ、OBにニンマリし、パットをはずせば「惜しい」と言いつつチャンスと内心喜ぶこともあるようです(おっと誤解しないでください、小生は違いますよ、たぶん…)。

これはまさに虚飾に包まれた大人社会の縮図。本音を語れず言葉を装い、神経をすり減らしながら

Mr.フィギュア 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつもの緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。今月号から月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシヤレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けます。

暮らしている大人の日常。もうひと転がり足りなかった他人の失敗を嬉しがる人間関係、本音と建前を使い分ける社会構造が大袈裟ではあるが凝縮されているのではなからうか。とは言うものの、悩み多き日常から一時解放され、青空の下で1打でもスコアを減らそうと無邪気に楽しむことができるのは、それはそれで幸せと言えよう…。

さてグリーン上に戻る。パットはカップに届かなければ入らない。ショートするのは弱気な証



恒川憲一氏(つねかわけんいち) クリ
わ・けんいち) エイター。株式会社

シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』(セルバ出版)。

抛。基本は壁ドン! カップの内壁に向かって勇気をだして一直線。人生も同じ、人間万事何が起きるかわからない。生まれた瞬間から悩みと共生する人の宿命、目の前に起きたことに嘆き悩むより、どんと受けて立ち、いっそ楽しむくらいの意気込みを持つとう! 残りの人生、今生きている1刻1秒を噛み締めながらチャレンジ精神を忘れず、もうひと転がりしようではありませんか。

P・S ところで「正論」という言葉はまさに今、新鮮な響きを感じる。言葉の裏に真実がある。まさに正論を言う時代かもしれない(決してよいしよでは無い、そういういえば最近セイロン紅茶って聞かないなあ)。※表紙写真含めたポストカードセットをプレゼントします。(抽選10名様)お申し込みは、www.mr-figure.com。フェイスブックも見てね!